

## (8) 近畿



近畿地域では、景気は新型コロナウイルス感染症による厳しい状況が残る中で、持ち直しに足踏みがみられる。

- ・ 鉱工業生産は持ち直しに足踏みがみられる。
- ・ 個人消費はこのところ持ち直しに足踏みがみられる。
- ・ 雇用情勢は感染症の影響が残る中で、引き続き弱い動きとなっているものの、求人等に持ち直しの動きもみられる。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す (    は上方に変更、    は下方に変更)。

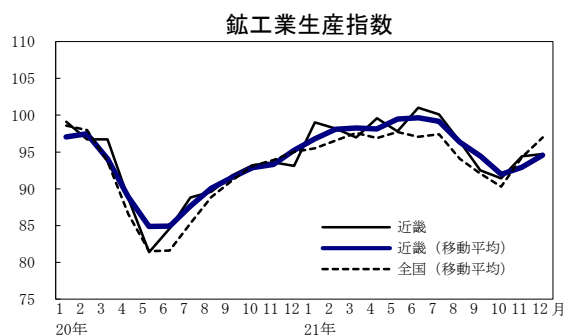
### 前回からの主要変更点

	前回 (令和3年12月)	今回 (令和4年3月)	
景況判断	新型コロナウイルス感染症による厳しい状況が徐々に緩和されつつあるものの、持ち直しの動きに弱さがみられる	新型コロナウイルス感染症による厳しい状況が残る中で、持ち直しに足踏みがみられる	↓
個人消費	一部に弱さが残るものの、持ち直しの動きがみられる	このところ持ち直しに足踏みがみられる	↓
雇用情勢	感染症の影響が残る中で、弱い動きとなっているものの、求人等の動きに底堅さもみられる	感染症の影響が残る中で、引き続き弱い動きとなっているものの、求人等に持ち直しの動きもみられる	↑

### 1. 鉱工業生産の動向

鉱工業生産は持ち直しに足踏みがみられる。

10-12月期の鉱工業生産は、化学が減少したこと、生産用機械が減少したこと等により、前期比2.9%減となった。



(備考) 1. 2015年=100、季節調整値。近畿の最新月は速報値。  
2. 全国及び近畿の太線は中心3か月移動平均。  
直近月は2か月平均。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		7-9 月期	10-12 月期	10月	11月	12月
化学	12.4	7.5	▲6.8	▲3.8	▲4.7	1.2
電気・情報通信機械	11.7	▲12.1	▲2.2	▲9.7	11.2	▲3.6
汎用・業務用機械	10.4	▲2.6	6.4	▲1.2	10.6	8.2
生産用機械	10.1	1.0	▲3.9	9.0	▲6.6	▲7.0
輸送機械	8.7	▲14.8	8.7	28.0	29.6	▲11.5
鉱工業	100.0	▲3.2	▲2.9	▲1.2	3.3	0.3

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

2. 10-12月期、12月は速報値。

## 2. 個人消費の動向

個人消費はこのところ持ち直しに足踏みがみられる。

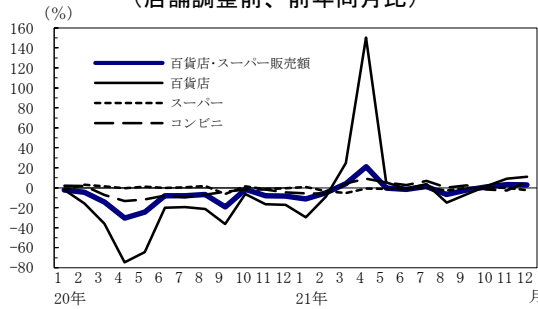
### (1) 地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

10-12月期は前期比2.9%増となった。月別にみると、10月は前月比2.8%増、11月は同0.1%増、12月は同0.2%増となった。

### (2) 百貨店・スーパー販売額

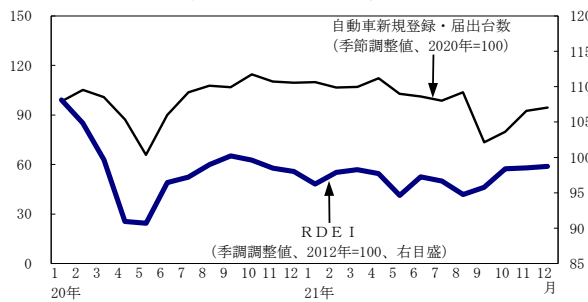
百貨店・スーパーは、10-12月期は前年同期比2.5%増となった。月別にみると、10月は前年同月比0.9%増、11月は同3.2%増、12月は同3.0%増となった。

百貨店・スーパー販売額等  
(店舗調整前、前年同月比)



	2021年10-12月	2021年10月	11月	12月
RDEI (消費*1)	2.9	2.8	0.1	0.2
百貨店・スーパー(*2)	2.5	0.9	3.2	3.0
百貨店(*3)	7.9	1.9	9.2	11.1
スーパー(*3)	▲0.9	0.4	▲0.3	▲2.3
コンビニ(*3)	0.7	▲1.8	▲2.7	6.4
乗用車(*4)	▲19.3	▲32.0	▲13.4	▲12.0
(季節調整値) (*4)	▲3.4	8.5	15.9	2.1

RDEI (消費) と自動車新規登録・届出台数の推移



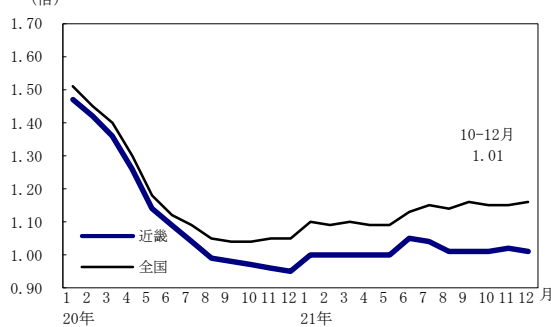
- (備考)
1. 季節調整済前期(月)比 (%)
  2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)  
百貨店・スーパーは内閣府にて算出。
  3. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)  
百貨店、スーパー及びコンビニは、経済産業省の近畿(福井、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山)の値。
  4. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)%)

## 3. 雇用情勢

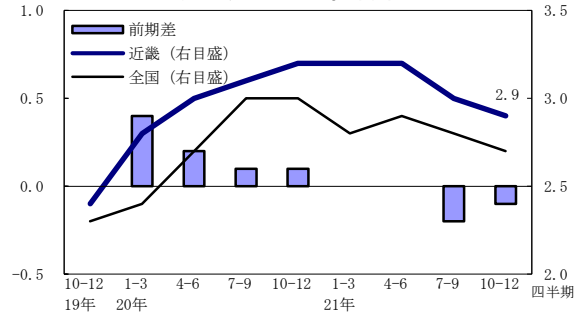
雇用情勢は感染症の影響が残る中で、引き続き弱い動きとなっているものの、求人等に持ち直しの動きもみられる。

有効求人倍率は低下している。完全失業率は前期を下回っている。

有効求人倍率 (季節調整値、就業地別)



完全失業率 (季節調整値)



(13) 景気ウォッチャー調査（令和4年1月調査）景気判断理由の概要

8. 近畿

(◎良、○やや良、□不変、▲やや悪、×悪)

分野	判断	判断の理由	
現状	家計 動向 関連	▲	・まん延防止等重点措置の適用が決まっただけで、来客数が3%減少している（コンビニ）。
		□	・1月中旬までは、気温の低下などで、来客数は前年を上回るペースで推移し、防寒衣料やグッズなどの動きも活発であった。ただし、月後半は新型コロナウイルスオミクロン株の感染が急拡大した影響で、特に年配層の来客数が明らかに減少した。レストランの予約キャンセルなど、消費減退の具体的な動きが発生している（百貨店）。
		×	・キャンセルが止まらず、今後は宿泊関連の府民割も止まってしまうが、どうしようもない（観光型旅館）。
	企業 動向 関連	□	・建設資材価格の高騰で、見積り価格が上昇しているほか、資材不足で納期が未確定となり、工期内でのしゅん工が厳しい状況である。コストの上昇と建設資材不足に苦慮している（建設業）。
		▲	・自動車向け部品の減産の影響を受け、製品の出荷量が減少している（化学工業）。
		○	・納期が来年度の製品の受注量が増えている（電気機械器具製造業）。
	雇用 関連	○	・1月に入り、求人数が増えている。今のところは、新型コロナウイルスの新規感染者数の増加による影響は出ていない（人材派遣会社）。
		□	・前年と比べると、新規求人数は若干増加している。介護や警備などの業種では、引き続き人材不足の状況となっている（職業安定所）。
	その他の特徴 コメント		▲：新型コロナウイルスオミクロン株の影響からか、来客数が平日の夕方から夜にかけて大きく落ち込んでいる。前倒しで売り尽くしセールを行っているが、効果が出ていない（家電量販店）。 ×：新型コロナウイルスオミクロン株の影響で予約のキャンセルが相次ぎ、店がガラガラの状態である。特に、当店に多い高齢の客は、感染を恐れてかなり外出を控えている（美容室）。
	分野	判断	判断の理由
家計 動向 関連	□	・春には食品の値上げも予定されている。賃金が上がらず、値上げが進む状況では、景気が良くなる可能性はほとんどない（スーパー）。	
	▲	・新型コロナウイルスの新規感染者数の増加が続くと、直接的な売上への影響もあるが、人手の確保が厳しくなる。時短要請以外の時間帯でも、営業活動ができない状況となることが想定され、売上は更に減少すると予想している（一般レストラン）。	
企業 動向 関連	□	・新型コロナウイルスオミクロン株の影響がどう出るかは不透明であるが、設備投資の予算が削られていると感じる（その他非製造業 [商社]）。	
	▲	・まん延防止等重点措置が適用され、飲食店は営業時間が短縮となり、外出を控える動きも出るため、業務用の売上増加は期待できない。家庭用も、以前のように巣籠り需要は高まらないと予想されるため、売上の増加は期待できない（食品品製造業）。	
雇用 関連	□	・求人数は増えつつあるものの、労働条件の改善はみられない。そのため、求職者とのマッチングになかなかつながらない状況が続いている（民間職業紹介機関）。	
その他の特徴 コメント		□：新型コロナウイルスの新規感染者数の急激な増加により、来客数の増加は難しいが、食品や雑貨、嗜好品などの売上は増加し、客単価も上昇傾向にある。今後も同様な傾向が続くと予想される（その他専門店 [医薬品]）。 ▲：新車の受注は増えているが、メーカーから新車が入ってこない。また、新型コロナウイルスオミクロン株の影響で仕事が回らない（乗用車販売店）。	

(D I) 現状・先行き判断D Iの(近畿)推移(季節調整値)

